令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　高見　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

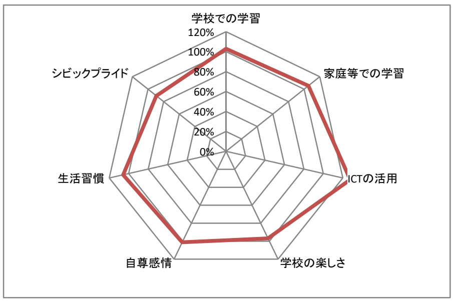
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語			
全体的な傾向や特徴など	「思考、判断力、表現力等」に関する問題はすべての項目で全国平均を上回っている。「知識及び技能」については「言語の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を下回るがそれ以外の項目は上回っている。	全国平均正答率との比較	上回っている
よくできた問題	話し合いの様子をもとに発表者の伝えたいことを読み取る問題の正答率が高い。		
努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題に課題がある。		

算数			
全体的な傾向や特徴など	正答率は全国平均に対して、「知識及び技能」「思考、判断力、表現力等」の観点では共に上回っている。さらに領域別に見てみると「データの活用」を除いて他の領域はすべて全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較	上回っている
よくできた問題	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題の正答率が高い。		
努力が必要な問題	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題がある。		

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・質問紙の多くの項目について、肯定的な回答が全国平均より高い。特に生活習慣・ICT活用については顕著である。 ・毎日の定時の起床や朝食に対して95％以上、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」に対しては90％以上の児童が肯定的に回答している。 ・授業以外でのPC・タブレットなどのＩＣＴ機器の使用が全国平均の2倍であり、ICT機器の活用が日常化している。 ・学校全体での授業改善により、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したことや教師の働きかけにより、児童の人間関係は向上している。しかし、学校の楽しさを実感したり、自尊感情を高めたりする面では課題が残り、今後の取組が必要である。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○聞き方・話し方のスタンダードの定着を図り、対話的な学びの視点からの授業改善を図っていく。
○話合いの場面では、自分の考えをもてるようにするために、目的を明確にするとともに、互いが認められたり、話したことに反応したりする「聞く」風土づくりを行っていく。
○各担任が分かる授業づくり５つのポイントを常に意識し、子ども一人一人が成長を実感する学びの実現を図っていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○生活科や総合的な学習の時間、学校行事等において、児童が活躍できる場面づくりや他学年・他校種等との交流を積極的に進める中で、子ども自身の高まりの視覚化や外部評価（保護者・地域）を活用し自己有用感を高めていく。
○学校・学年通信、ホームページ等での情報発信を積極的にし、家庭や地域の方々からの肯定的な評価へとつないでいく。
○「高見中学校区で目指す児童・生徒の１０のすがたと取組」に基づき、小中学校・家庭・地域で連携して、系統的な一貫した指導に当たることにより、学力向上や生活習慣の充実を図っていく。